

◎令和6年度（2024年度） 学力等調査の結果について

子どもたちに「確かな学力」を育むためには、学校だけでなく家庭や地域のご協力が必要です。子どもたちの学力や学習状況の現状を理解していただくとともに、学校教育活動にも積極的なご支援をいただくためにも、本年度も本市の状況および課題について公表いたします。

1 横須賀市立小・中学校学習状況調査

小学校2～5年生と中学校1・2年生を対象とした「横須賀市立小・中学校学習状況調査」について、令和6年4月11日(木)～4月19日(金)に教科調査を、同年5月1日(水)～5月31日(金)に質問紙調査をそれぞれ実施しました。

本市が実施している学習状況調査は、他の自治体でも同一の問題を用いて実施しており、各学年、各教科概ね13万人から20万人が参加しています。よって、参加人数全体の平均を全国平均とみなし、本市の結果と全国の状況を比較しています。

本市では、限られた教科および学年での実施であることやそれぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことから、調査結果が児童生徒の学力すべてを表すものではなく、学力や児童生徒の生活習慣の一側面を示すものと考えています。

しかし、本学習状況調査の結果を児童生徒の学習状況を客観的に把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のために役立てていきたいと考えています。

(1) 調査の概要

ア 調査の目的

横須賀市立小・中学校学習状況調査を実施し、横須賀市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、その調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善および児童生徒の学習に役立て、横須賀市として必要な施策の策定に資することを目的としています。

イ 調査事項

小学校2～5年生：①国語（聞き取り 有） ②算数 ③質問紙

中学校1・2年生：①国語（聞き取り 有） ②数学 ③質問紙

※各学年・各教科、前学年までの履修内容を出題範囲としています。

ウ 公表について

本市全体の状況及び課題について、公表いたします。

※序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

(2) 横須賀市立学校の教科別結果

【小学校 2 年生】

	国 語			算 数		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
全国平均正答率	72.0	82.9	51.5	76.2	81.2	55.4
本市平均正答率	67.3	78.5	46.3	74.4	79.8	52.1
全国平均正答率を 100 としたときの 本市の正答率	93.5	94.7	89.9	97.6	98.3	94.0
前年度との差	1.4	1.1	1.9	1.9	2.1	1.7

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 6.5 ポイント下回りました。また、基礎において 5.3 ポイント、活用において 10.1 ポイント下回りました。

各領域において、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「書くこと」は 9.5 ポイント下回りました。

条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 29.4% と高く、「書くこと」への抵抗をなくしていけるように日常的に自分の思いを短文で書く等の指導が必要です。

【算数】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 2.4 ポイント下回りました。また、基礎において 1.7 ポイント、活用において 6.0 ポイント下回りました。

各領域において、「数と計算」、「図形」、「測定」は全国平均正答率と同程度でしたが、「データの活用」は全国平均正答率を 6.4 ポイント下回りました。

「数と計算」において、順序数と集合数の文章問題解くために 3 口の立式をする問題では、全国平均正答率を 8.6 ポイント上回りました。一方で、示された減法の式から、適切な文章をつくる問題は、9.1 ポイント下回りました。加法・減法の学習において、具体的な場面を通して式が何を意味しているのか言葉で説明したり、示された式にあった文章問題を作ったりすることができるような指導が必要です。

【小学校3年生】

	国 語			算 数		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
全国平均正答率	72.8	80.3	57.9	78.0	81.7	64.7
本市平均正答率	64.7	72.8	48.4	70.9	75.3	55.3
全国平均正答率を100としたときの本市の正答率①	88.9	90.7	83.6	90.9	92.2	85.5
前年度との差	-1.0	-0.1	-4.1	-4.3	-3.7	-5.5

同一集団の経年変化

2学年の時の値②	92.1	93.6	88.0	95.7	96.2	92.3
①-②	-3.2	-2.9	-4.4	-4.8	-4.0	-6.8

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では11.1ポイント下回りました。また、基礎において9.3ポイント、活用において16.4ポイント下回りました。

各領域において、「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「書くこと」、「読むこと」については、いずれも7～12ポイント程度下回りました。

条件に沿って書く作文の無解答率が本市は34.5%と高く、自分の思いを60字程度の短文で書くことと、目的意識と相手意識をもちながら書くことに慣れる指導が必要です。

【算数】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では9.1ポイント下回りました。また、基礎において7.8ポイント、活用において14.5ポイント下回りました。

各領域において、「数と計算」は全国平均正答率を6ポイント程度下回り、「図形」、「測定」、「データの活用」はいずれも、7～8ポイント程度下回りました。

「数と計算」において、加法の結合法則を用いて、考え方に合うように式に括弧を書く問題では、全国平均正答率を13.1ポイント下回りました。また、「測定」において、身近にあるもののかさを推測して、適切な単位を使うことができるかどうかを問う問題は、全国平均正答率を13.8ポイント下回りました。基本となる単位の量感を培うために、実際に、コップなどに水を入れたり、測り取ったりする活動を取り入れることが必要です。

【小学校 4 年生】

	国 語			算 数		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
全国平均正答率	73.4	78.4	62.8	72.1	75.2	64.3
本市平均正答率	64.3	68.5	55.4	66.0	69.0	58.4
全国平均正答率を 100 としたときの 本市の正答率①	87.6	87.4	88.2	91.5	91.8	90.8
前年度との差	-3.1	-4.4	0.6	-1.7	-1.5	-2.3

同一集団の経年変化

3 学年の時の値②	89.9	90.8	87.7	95.2	95.9	91.0
①－②	-2.3	-3.4	0.5	-3.7	-4.1	-0.2

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 12.4 ポイント下回りました。また、基礎において 12.6 ポイント、活用において 11.8 ポイント下回りました。

各領域において、「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は 12.1 ポイント、「書くこと」は 9.8 ポイント下回りました。

条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 23.1%であり、段落の役割を理解し、理由を明確にして自分の意見を論理的に書く指導の継続が必要です。

【算数】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 8.5 ポイント下回りました。また、基礎においては 8.2 ポイント、活用において 9.2 ポイント下回りました。

各領域において、「数と計算」、「図形」、「測定」、「データの活用」いずれも全国平均正答率を 5～6 ポイント同程度下回りました。

「数と計算」において、余りを切り上げて処理することができ、その理由を説明する問題は、全国平均正答率を 13.2 ポイント下回りました。また、無解答率も 28.1%と全設問中で最も高い結果でした。計算結果について、問題場面に戻って余りを切り捨てるのか、切り上げるのかを考え、図や言葉で説明できるよう指導が必要です。

【小学校 5 年生】

	国 語			算 数		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
全国平均正答率	64.9	64.7	65.6	64.0	68.3	55.8
本市平均正答率	59.4	59.4	59.5	58.1	62.8	49.1
全国平均正答率を 100 としたときの 本市の正答率①	91.5	91.8	90.7	90.8	91.9	88.0
前年度との差	-1.4	-1.4	-1.9	3.9	4.1	3.3

同一集団の経年変化

4 学年の時の値②	90.7	91.8	87.6	93.2	93.3	93.1
①－②	0.8	0	3.1	-2.4	-1.4	-5.1

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 8.5 ポイント下回りました。また、基礎において 8.2 ポイント、活用において 9.3 ポイント下回りました。

各領域において、「我が国の言語文化に関する事項」、「読むこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「話すこと・聞くこと」は 7 ポイント程度、「書くこと」は 8 ポイント程度下回りました。

条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 21.7%であり、各児童のつまずきの内容に応じた「書くこと」の指導の充実が必要です。

【算数】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率では、全国と比較して教科全体では 9.2 ポイント下回りました。また、基礎において 8.1 ポイント、活用において 12.0 ポイント下回りました。

各領域において、「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」のいずれも、全国平均正答率を 5～6 ポイント程度下回りました。

「データの活用」において、1 目盛りの大きさが違う 2 つのグラフをもとに、間違っている理由を説明する問題の無解答率が本市は、全設問中 54.7%と最も高く、1 目盛りの大きさに着目して、批判的にグラフを読み取り、伝え合う活動を通して、数学的な表現を用いて記述できるような指導が必要です。

【中学校 1 年生】

	国 語			数 学		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
全国平均正答率	61.3	64.9	54.6	64.4	67.5	52.1
本市平均正答率	57.8	61.1	51.6	60.4	63.2	49.4
全国平均正答率を 100 としたときの 本市の正答率	94.3	94.1	94.5	93.8	93.6	94.8
前年度との差	0.5	-0.9	3.1	-1.0	-1.8	1.7

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 5.7 ポイント下回りました。また、基礎において 5.9 ポイント、活用においては 5.5 ポイント下回りました。

各領域において、「情報の扱いに関する事項」「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「書くこと」は 6.9 ポイント下回りました。

条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 26.1%と高く、資料から読み取ったことを根拠としながら自分の考えを明確に述べる指導の充実が必要です。

【数学】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 6.2 ポイント下回りました。また、基礎において 6.4 ポイント、活用において 5.2 ポイント下回りました。

各領域において、「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」のいずれも、全国平均正答率と同程度でした。

「変化の関係」において、もとにする量の大きさが違うとき、比べる量の大小と割合の大小は一致しないことを、具体的に説明する問題の無解答率が本市は、全設問中 21.9%と最も高いことから、小学校の学びを振り返る場面を設定して、割合についての理解を深める必要があります。

【中学校 2 年生】

	国 語			数 学		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
全国平均正答率	65.1	70.3	55.2	54.7	58.2	43.9
本市平均正答率	62.3	66.8	53.8	51.4	55.4	39.6
全国平均正答率を 100 としたときの 本市の正答率①	95.7	95.0	97.5	94.0	95.2	90.2
前年度との差	0.6	-1.4	-5.2	0.4	1.6	-3.1

同一集団の経年変化

1 学年の時の値②	93.8	95.0	91.4	94.8	95.4	93.1
①-②	1.9	0	6.1	-0.8	-0.2	-2.9

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 4.3 ポイント下回りました。また、基礎において 5 ポイント、活用において 2.5 ポイント下回りました。

各領域において、「情報の扱い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国平均正答率と同程度でしたが、「書くこと」は 11.4 ポイント下回りました。

条件に沿って書く作文の無解答率が本市は 21.8% と高く、資料の特徴をまとめ、それを根拠としながら自分の考えを明確に述べる指導の充実が必要です。

【数学】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して教科全体では 6.0 ポイント下回りました。また、基礎において 4.8 ポイント、活用において 9.8 ポイント下回りました。

各領域において、「数と式」、「図形」、「関数」は全国平均正答率と同程度でしたが、「データの活用」の全国平均正答率を 8 ポイント程度下回りました。

「データの活用」において、度数分布表から、ある階級の相対度数を求める方法を記述する問題と分布の範囲を求める問題は、全国平均正答率を 14～16 ポイント程度下回りました。また、「数と式」において、マグネットの個数を示された式で求めることができる理由を説明する問題の無解答率が本市は、全設問中 41.8% と最も高いことから、数量の関係や法則などを式に表したり、式を事象に即して解釈したりする活動を大切にするとともに、数学的な表現を用いて記述できるような指導が必要です。

学年・教科によって傾向は異なりますが、全ての学年・教科において、本市の児童生徒の平均正答率は、全国の児童生徒全体の平均正答率を下回っています。

各学年・教科の課題については結果とともにお示ししています。また、各学年・教科の指導改善のポイントについては、各学校に示します。

学年・教科によっても異なりますが、自分の考えや根拠を明確にして説明したり、条件に沿って作文を書いたりするなど、記述することに課題が見られる傾向があります。教科を問わず、日々の授業において、自分の考えを表現したり、記述したりする力を伸ばすことができるよう、引き続き授業改善を図ります。

(3) 横須賀市立学校の質問紙調査結果

質問紙調査における個々の質問を、表に示すカテゴリーに分類しています。それぞれのカテゴリーに分類される一つ一つの質問について、「最も望ましい／良好な選択肢」「次に望ましい／良好な選択肢」「改善／配慮を要する選択肢」「特に改善／配慮を要する選択肢」を点数化し、どの程度の児童生徒が肯定的な選択肢を選んだかを数値化しています。その数値をさらに、全国平均を 50 とする偏差値として算出した値を示しています。したがって、値が大きいほど肯定的な回答をした児童生徒の割合が高く、また値が 50 に近いほど全国に近いことが分かります。

		小2	小3	小4	小5	中1	中2
自己認識	家族のささえ	49.7	49.5	49.7	49.6	50.3	50.0
	友だちのささえ	50.0	49.8	49.7	49.7	50.3	50.3
	先生のささえ	49.8	49.9	50.1	50.1	50.1	49.4
	成功体験と自信	49.9	50.0	50.3	49.9	50.8	50.4
	充実感と向上心	50.1	50.2	50.1	49.8	50.3	50.0
	感動体験	50.0	50.6	49.5	49.8	51.4	50.6
	他者からの評価	—	50.0	49.7	49.9	51.2	50.9
社会性	規範意識	49.8	50.2	50.1	49.5	49.0	48.7
	思いやり（人間関係構築力）	50.0	50.7	50.2	49.7	50.2	50.1
	発信力	50.0	50.3	50.2	50.0	50.9	50.5
	対話・話し合い	49.8	50.3	50.3	50.7	52.5	53.1
	社会参画	—	—	—	49.8	50.8	49.8
学級環境	学級の規範意識	49.5	49.8	49.4	49.0	48.8	48.9
	学級の絆	49.9	50.0	49.8	49.7	50.9	50.6
	いじめのサイン	48.8	48.1	47.8	48.6	48.5	48.4
	対人ストレス	48.7	48.7	48.1	48.2	48.0	47.9
生活・ 学習習慣	生活習慣	49.9	49.6	49.6	49.8	49.7	48.9
	学習習慣	48.7	49.6	47.9	47.4	48.1	48.3
	学習意欲	49.4	50.3	49.6	49.6	50.9	49.9

※発達段階に合わせて質問が設定されているため、学年によって質問のない項目があります。

※全国平均＋2ポイント以上で 、全国平均－2ポイント以下で

自己認識にかかわる項目については、いずれの学年においても全国と同程度と捉えることができます。社会性にかかわる項目のうち、「対話・話し合い」については、学年が上がるごとに、値が大きくなっているとともに、小学校2年生を除く、全ての学年において全国平均を上回っています。各校の学習活動において対話や話し合いを多く取り入れているとともに、児童生徒がその意義を実感していると捉えることができます。

学級環境にかかわる項目のうち、「いじめのサイン」「対人ストレス」については、全ての学年において全国平均を下回っており、いじめやその兆候、人間関係の不安を感じている児童生徒の割合が全国と比較して高いと捉えられます。一人一人の状況を積極的に把握し、適切な指導および支援を行うことが求められます。

生活・学習習慣にかかわる項目のうち、「学習習慣」については全ての学年において全国平均を下回っています。学校における学習を家庭での学習につなげることができるよう、指導改善を図る必要があります。

2 全国学力・学習状況調査

小学校6年生と中学校3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に実施されました。

本市では、限られた教科および学年での実施であることや、それぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことから、調査結果が学力すべてを表すものではなく、学力や児童生徒の生活習慣の一側面を示すものと考えています。しかし、本調査結果を児童生徒の学習状況や生活状況を把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のために役立てていきたいと考えています。

(1) 調査の概要

ア 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

イ 児童生徒に対する調査事項

(ア) 教科に関する調査

* 小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語及び数学とする。

* 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

* 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(イ) 質問調査

* 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を、原則全ての児童生徒を対象に、児童生徒の活用する ICT 端末を用いたオンライン（ただし、生徒は文部科学省 CBT システム：MEXCBT）による回答方式で実施する。

ウ 公表について

本市全体の状況および課題について、公表いたします。

※ 序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

(2) 横須賀市立学校の教科別結果

【小学校 6 年生】

	国 語	算 数
全国平均正答率	67.7	63.4
本市平均正答率	63	59
全国平均正答率を 100 としたときの 本市の正答率	93.1	93.1
前年度との差	-0.7	-1.3

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して 6.9 ポイント下回りました。

各領域において、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「読むこと」は全国平均正答率を 5 ポイント程度下回りました。

全国平均正答率と大きな差があった問題は、漢字の書き取りと記述式の問題であったことから、文章の中で漢字を活用する力と、資料や根拠をもとに、条件に合わせて自分の考えを記述する力の育成が課題となっています。

【算数】

全国平均正答率を 100 としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して 6.9 ポイント下回りました。

各領域において、「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」のいずれも、全国平均正答率と同程度でした。

「変化と関係」において、家から図書館までの自転車の速さが分速何mか求める問題では、全国平均正答率を 7.3 ポイント下回りました。日常の具体的な場面に対応させながら、速さなどの単位量あたりについて理解できるように指導することが必要です。

【中学校3年生】

	国 語	数 学
全国平均正答率	58.1	52.5
本市平均正答率	57	51
全国平均正答率を 100としたときの 本市の正答率	98.1	97.1
前年度との差	0.7	1.0

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して1.9ポイント下回りました。

各領域において、全体的に全国平均正答率とほぼ同程度という結果でした。

記述式の問題形式（全3問）については、無解答率が全国平均と同程度であり、これまでの指導の成果がうかがえます。

【数学】

全国平均正答率を100としたときの本市の平均正答率は、全国と比較して2.9ポイント下回りました。

各領域において、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」いずれも、全国平均正答率と同程度でした。

記述式の問題の中でも、統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだしたり、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取ったりして、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題や、筋道を立てて考え、証明する問題の無解答率がいずれも30%以上と高く、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明させる際に、生徒一人一人が自分なりに工夫して証明し、よりよいものへと互いに高めていく活動などを取り入れることが必要です。

いずれの学年・教科において、本市の児童生徒の平均正答率は、全国の公立学校の児童生徒全体の平均正答率を下回っています。しかし、中学校3年生国語および数学については、同程度とみることができます。

各学年・教科の課題については結果とともにお示ししています。今後も、日々の授業において、自分の考えを表現したり、記述したりする力を伸ばすことができるように指導するとともに、粘り強く課題に取り組む力を育成するように、指導改善を図ります。

(3) 横須賀市立学校の質問調査結果

質問調査における小学校6年生・中学校3年生それぞれの質問事項のうち、本市の児童生徒の傾向と、全国の公立学校の児童生徒全体の傾向とが大きく異なった事項は次の通りです。(「選択肢」に挙げた回答をした児童生徒の割合(複数の選択肢を挙げているものについては、それらの合計)について、本市と全国の値を比較し、その差が5ポイント以上の質問事項について示しています。)

【小学校6年生】

5ポイント以上低い質問事項

質問番号	質問事項	選択肢	本市 (%)	全国 (%)	差
(5)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ってゲームも含む)をしますか	○1 4時間以上 ○2 3時間以上、4時間より少ない ○3 2時間以上、3時間より少ない	57.3	49.2	△8.1
(8)	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	○1 している ○2 どちらかといえば、している	74.5	82.3	△7.8
(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	○1 当てはまる ○2 どちらかといえば、当てはまる	60.6	67.1	△6.5
(20)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできますか	○1 できている ○2 どちらかといえば、できている	73.2	80.7	△7.5

(21)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	○1 3時間以上 ○2 2時間以上、3時間より少ない ○3 1時間以上、2時間より少ない	41.5	54.6	△13.1
(22)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	○1 4時間以上 ○2 3時間以上、4時間より少ない ○3 2時間以上、3時間より少ない	13.9	21.5	△7.6
(23)	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書を除く）	○4 101～200冊 ○5 201～500冊 ○6 501冊以上	26.3	31.9	△5.6
(40)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	○1 当てはまる ○2 どちらかといえば、当てはまる	77.4	82.5	△5.1
(42)	国語の勉強は好きですか	○1 当てはまる ○2 どちらかといえば、当てはまる	53.1	62.0	△8.9
(44)	国語の授業の内容はよく分かりますか	○1 当てはまる ○2 どちらかといえば、当てはまる	80.5	86.3	△5.8
(52)	算数の授業の内容はよく分かりますか	○1 当てはまる ○2 どちらかといえば、当てはまる	75.7	82.1	△6.4
(55)	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	○1 当てはまる ○2 どちらかといえば、当てはまる	78.0	83.3	△5.3
(61)	英語の勉強は好きですか	○1 当てはまる ○2 どちらかといえば、当てはまる	61.2	69.3	△8.1

【中学校3年生】

5ポイント以上低い質問事項

質問番号	質問事項	選択肢	本市 (%)	全国 (%)	差
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	○1 している ○2 どちらかといえば、している	75.7	80.7	△5.0
(5)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか	○1 4時間以上 ○2 3時間以上、4時間より少ない ○3 2時間以上、3時間より少ない	59.1	48.9	△10.2
(6)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)	○1 4時間以上 ○2 3時間以上、4時間より少ない ○3 2時間以上、3時間より少ない	63.3	55.9	△7.4
(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	○1 当てはまる ○2 どちらかといえば、当てはまる	56.9	67.5	△10.6
(53)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	○1 当てはまる ○2 どちらかといえば、当てはまる	72.3	78.5	△6.2

5ポイント以上高い質問事項

質問番号	質問事項	選択肢	本市 (%)	全国 (%)	差
(27)	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	○1 ほぼ毎日 ○2 週3回以上	84.5	64.4	20.1

(29)	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	○1 発表していた ○2 どちらかといえば、発表していた	74.0	64.8	9.2
(38)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	○1 当てはまる ○2 どちらかといえば、当てはまる	88.8	82.2	6.6
(63)	1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	○1 当てはまる ○2 どちらかといえば、当てはまる	74.8	68.8	6.0

普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ってゲームも含む)をしている児童生徒が、全国平均値よりも高い傾向がみられます。また、児童においては、家庭での学習習慣が身に付いていない児童の割合が、全国平均値よりも高い傾向がみられます。ゲームや携帯電話、スマートフォンの使用時間はどのくらいが適切か見直したり、自身の学びの過程や変容を自覚したりする場面を設けることが大切です。

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できると回答している児童生徒の割合が低い傾向があります。また、「横須賀市立小・中学校学習状況調査」の結果においても、「いじめのサイン」、「対人ストレス」について課題がみられるため、児童生徒一人一人の状況を把握し、適切な指導及び支援を行うことが求められます。

学校で、PC・タブレットなどのICT機器を使用する頻度については、中学校3年生において全国平均値を大きく上回っています。1人1台端末の配備から4年が経過した中学校においては、ICT機器が学習活動のツールとして定着していることがうかがえます。今後も効果的な活用や個に応じた指導等への活用の充実を図ります。

3 学力等調査から見られた本市の課題と今後の取組について

2つの調査の結果をふまえた本市の課題に対して、今後次のような取組を実施してまいります。

(1) 教科調査から見られた本市の課題

	課 題	今後の取組
国語	「書くこと」において、無解答率が高い。書いていても、条件に沿って書けていない。原稿用紙の使い方や段落の役割等の基礎的な知識が不足している。	各学年における「書くこと」の指導において、「誰に・何を・どのように」書くのかという相手意識と目的意識を持って書くことができるように指導改善を図る。また、原稿用紙の使い方を始めとする書くための基礎的な知識を児童生徒に繰り返し指導していくための授業改善を図る。児童生徒が「書くこと」において身に付けた力を継続的に活用できるように指導改善を図る。
算数・数学	①「データの活用」領域において、棒グラフや折れ線グラフ等のデータを正しく読み取り、判断した理由等を説明することに課題がある。 ②「事柄・事実」、「方法・手順」および「理由」の説明を記述する問題の無解答率が高く、正答率が低い。	①グラフを読み取り、見いだしたことを伝え合う活動を通して、数学的な表現を用いて説明できるように指導改善を図る。また、複数のデータの分布の傾向を比較したり、批判的に考察したりして、判断した理由等を数学的な表現を用いて説明できるように指導改善を図る。 ②一人一人の児童生徒がどのように解答をしているのか、どこにつまずきがあるのかを分析するとともに、授業においては、思考の過程や自分の考え、また、他者の考え等を数学的な表現を用いて説明する力、記述する力を伸ばすことができるように指導改善を図る。

(2) 質問紙調査及び質問調査から見られた課題

課 題	今後の取組
家庭での学習習慣が確立していない児童生徒の割合が高い。	<p>児童生徒が学びを自分事として捉え、主体的に学ぼうとする意欲を高める授業づくりを大切にし、学校における学習を家庭での学習につなげていく。</p> <p>また、ゲームや携帯電話、スマートフォンの使用時間はどのくらいが適切かどうかを見直したり、自身の学びの過程や変容を自覚したりする場面を大切にし、家庭と連携を密に取りながら、指導改善を図る。</p>
人間関係にストレスを感じている児童生徒が一定数いる。	<p>「人間関係づくり」を大切にするとともに、授業を通して、子どもたちどうしで互いのよさを認め合う場面を設定したり、先生方が児童生徒一人一人のよさを見取って認めたり、成長過程を見取って評価したりするなど、「認められている」と実感するような経験を重視していく。</p> <p>また、全教職員で連携を図るとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどとも連携しながら、児童生徒の状況把握及び適切な支援に努める。</p>